

氏 名：佐 藤 直 子
学 位 の 種 類：博士（看護学）
報 告 番 号：甲第112号
学 位 記 番 号：博第109号
学位授与年月日：令和5年3月15日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論 文 題 目：組織構造の改革における急性期病院の看護師長の経験：
病棟再編に焦点をあてて
Experience of Nurse Managers in Acute Care Hospitals Regarding Organizational
Restructuring : Focus on Restructuring of Wards
論 文 審 査 員：主査 新 田 真 弓
副査 安 部 陽 子（正研究指導教員）
副査 佐々木 幾 美（副研究指導教員）
副査 石 田 千 絵
副査 千 葉 京 子

論文審査の結果の要旨

審査の概要

超高齢化社会を迎えた日本では医療提供体制の改革が進められており、地域医療構想の策定等に伴い、病棟再編などの組織構造の改革が行われている。改革によって平均在院日数、病床稼働率、収益などの効果が見られる一方で、病棟のスタッフは不安や抵抗感を抱くため、看護管理者によるモチベーションを高められるような支援が重要であることが先行研究より明らかとなっている。

本研究は、病棟再編に焦点をあてて組織構造の改革における急性期病院の看護師長の経験をナラティブ・アプローチにより明らかにしたものである。これまでの研究では看護師長の実際の行動や役割認識などが報告されているが、本研究は組織構造の改革の中でも、改革方針や看護部長の意向を受けて、新たな病棟管理を検討し組織を形成するという病棟再編の文脈の中で、看護師長の内面を明らかにしており、意義ある研究と評価された。

本研究は社会構成主義を理論的前提とし、経験を「語り手が、人、文化、歴史等との関係や自省から得たものであり、特定の視点から特定の聞き手に対して言語を通して構築され、聞き手との対話を通して再構築されるもの」ととらえ、ナラティブ・インタビューを実施した。得られたデータはRiessman (2008/2014)が紹介しているWilliams(1984)のテーマ分析を参考に分析を行い、結果では、「組織構造の改革の中で問われる看護師長の意思決定」「今までに一緒に働いたことがないスタッフとのチーム作り」

「病棟再編を推進するための他者との相談・連携」「病棟再編と同時に行われる改革」の4つのテーマが導き出された。中間管理職である看護師長は、先行きが不確実な状況の中で、病院・看護部の方針とスタッフとの間で板挟みになり自信が持てないままに様々な意思決定を迫られていたこと、看護の質を担保しつつスタッフとの関係性を含めた病棟の組織づくりをしなければならなかったこと、一方で、他職種等の他者との対話により視野の拡大等が起きていた場合もあったこと、改革という機会を生かしてパートナーシップナーシングや変則2交代制などを導入することも試みていたが、複合的な改革がスタッフや自分自身の負担となることもあったことが丁寧なインタビューデータの分析に基づき、豊かな記述によって示されていた。病棟再編における重要な看護管理実践として、ビジョンの明示、専門家との対話等による情報収集、権限委譲や役割の付与によるスタッフの能力の活用、優先課題の選択と集中等が、先行文献を用いた多方面からの検討による、看護管理実践への有用な考察として示された。

以上より、本研究は、看護師長が不安や葛藤を抱えながらも、病院組織としての役割と病棟管理者としての役割を果たすために、方法を模索しながら改革に取り組んでいる様相を当事者の語りから明らかとした点が評価された。今後さらに病院の統廃合や病院運営の効率化に伴う病棟再編は加速することから、本研究結果は看護師長の支援や教育にも広く寄与できると評価された。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たしていると判断し、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定した。